

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270101306		
法人名	社会福祉法人 桐紫会		
事業所名	グループホームたもぎの		
所在地	青森県青森市大字幸畑字阿部野50-1		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和3年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然に囲まれた中で、ゆったりと家庭的で笑顔あふれる生活と地域交流を支援します。画一的にならないよう一人ひとりに寄り添った介護で日常生活を支援しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>総括管理者の統率管理の下、職員は使命感を持って生き活きと業務に従事している。職員は、身体拘束をしないケアについて理解と意識が高く、また法人としても身体拘束を行わないという強い姿勢でホーム運営を行っている。週2回、協力医療機関の心療内科と歯科の往診があり、往診医から他医療機関への紹介状がある場合は、通院介助をしている。コロナ禍で外出制限等がある中でも、「お楽しみ会」を取り入れる等、利用者に喜ばれるよう工夫を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示し、職員一人ひとりが理念と照らし合わせた介護を目指しており、思いやりと優しさをモットーに家庭的な雰囲気重視している。	「自然に囲まれた中でゆったりと家庭的で笑顔あふれる生活と地域との交流を支援します」という地域密着型サービスの役割を反映させた独自の理念を作成し、玄関や職員休憩室に掲示している。また、ポケットに入る名刺サイズのを携帯し、日常的に確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から近隣住民に気軽に立ち寄ってもらえるように関わり、ホームを理解してもらい、交流を行っている。	コロナ禍以前は地域住民が立ち寄ってくれたり、婦人部の手踊りや獅子舞い、法人の保育園児の訪問等、地域資源に関わりながらホームを理解してもらい働きかけを行っていた。コロナ収束後は、以前のように交流を行って利用者を喜ばせたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議のメンバーや面会に来られたご家族様へ行っている。外部の方を受け入れるときは、利用者様のプライバシーに十分配慮をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でホーム状況を報告している。アドバイスは改善に向けて活かせるように取り組んでいる。	2か月に1回開催しており、地域包括支援センター職員・町会長・民生委員・女性会・利用者家族がメンバーとなっている。現在はコロナ禍のため書面開催となっている。会議では、防災訓練への参加を促すほか、メンバーにとって認知症の理解を深める機会にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の入居状況の報告のほか、主に運営推進会議の連絡や相談を行っている。必要時には電話やFAXで問い合わせをしている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員が必ず参加している。市からは、災害対策やコロナ関係等の情報を提供してもらっている。ホームからは、自己評価および外部評価票、目標達成計画を提出し、ホームの実態を理解してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回、身体拘束委員会を開催している。状況を把握し、定期的な学習や研修に参加して理解を深め、身体拘束にならないケアをしている。	法人として身体拘束は行わないという強い姿勢で取り組んでおり、2か月に1回身体拘束委員会を開催し、勉強する機会を設けている。日中は玄関の施錠をしていないが、夜間は警備の関係で施錠している。居室にも鍵はつけていない。やむを得ず身体拘束を行う場合に備えてマニュアルを整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修に参加し、マニュアルを作成している。全職員で共有し、虐待が見過ごされないように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は制度を理解できるよう、研修等に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、重要事項説明書で説明をしている。利用者様やご家族様の不安や疑問を確認して十分な説明をし、希望や要望を取り入れるように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や面会、運営推進会議で意見をいただいて反映させている。苦情については、窓口を設置して速やかに対策を検討し、改善に努めている。	利用者及び家族と信頼関係を築けるように心がけ、面会時や日頃のケア時に意見や苦情等を気軽に話せる環境づくりに努めている。利用者の家族に運営推進委員会のメンバーになってもらい意見を述べられるようにしている。また、毎月の請求書と一緒にその時々情報を送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、ミーティングを行っている。その中で、職員からの意見や提案について検討をしている。日頃の会話からも可能な限り反映できるように努めている。	全体会議を月1回開催している。また、ケースカンファレンス、会議・委員会の報告、学習会等を通して、情報共有や意見交換の場としている。利用者の受入れ等については、職員からの意見を聞いている。3ユニット内での異動はあるが、利用者にも与える影響を最小限にして行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	就業規則を整備し、職員の日々の努力や勤務状況を把握している。職務に対する評価を行い、段階的にステップアップできるよう個々の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や職場研修、法人研修を通して、スキルアップへ繋げている。職場研修では、不参加者に資料配布して自己学習へつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームとの定期的な会議を設けて情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談を受けた後、ご本人様に会い、要望に対してできる限り応えられるように話し合いを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い、ご家族様の要望やこれまでの経過、困っている事等を聞いて話し合いをしている。入居後も面会時に情報交換や現状を伝え、関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前の生活の様子や習慣等を聞き取り、入居前と同じように過ごせるように努めている。また、職員は家庭的な雰囲気の中で、利用者様と一緒に過ごしながらかえ合う関係を築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事は可能な限り行っていただき、それぞれが役割を持って生活できるように支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な状況報告を手紙や電話でお伝えする等、ご家族様との関係を大事にしている。面会はコロナ禍のため制限を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの店や美容院に行って関係が途切れないように努めている(コロナ禍のため、適宜対応)。	希望があれば電話のやりとりを手伝う等、これまで関わってきた人と交流が継続できるよう支援している。現在はコロナ禍のため、馴染みの場所に出かけたり、人と会うことに制約があり、楽しみにしている買い物は代行支援の形で行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居時に必ず他の利用者様に紹介をして、馴染めるように配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は、お見舞いや面談をすることで状況を把握し、ご家族様や医療機関との連携を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の意向等が十分に発揮できるよう、全職員が利用者様の視点に立ち把握に努めている。	日々のケアの中で話をじっくり聞くように努め、その中からその時々思いや希望、意向を把握している。また、必要に応じて、関係者からも情報収集を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や関連機関より情報を提供していただき、日々の支援に反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定を行い、体調の変化や1日の暮らし方、生活リズム、利用者様のできる事、できない事を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は利用者様の状態、利用者様及びご家族様の希望に変化がないかを観察し、把握に取り組んでいる。	利用者がホームでどんな生活を送りたいかを本人はもちろん、家族の意見や希望を聞いて具体的な支援計画となるように取り組んでいる。実施期間に拘わらず、日頃から利用者の状態等を観察し、職員の気づきを大事にその時々状態に合わせて介護計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアや実践状況、職員の気づき、工夫等について記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様とご家族様が安心できるように、その時々に合わせて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員等に呼びかけ、地域祭りや行事に参加できるように支援している(現在はコロナ禍のため、控えている)。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の往診を利用している。利用者様とご家族様が他の医療機関を希望する場合は、受診できるように支援している。	入居時にこれまでの受療状況を確認し、今後の受診について意思確認を行っている。往診医から他医療機関への紹介状がある場合は、ホームで通院介助をしている。家族が希望する医療機関を受診する場合は、家族から協力を得ている。受診結果は、利用者や家族と共有が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の身体状況に変化があったときは、看護師に報告をして、指示を受けている(24時間体制)。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に面会に行き状態を確認したり、情報交換を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の利用者様が、より良く暮らせるように、ホームでできる事を見極め、かかりつけ医と連携して支援をしている。	看取りは行っていないことを入居時に説明している。日常的な健康管理は、法人看護師の下で対応している。急変時の対応は、マニュアルを作成して対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に対応ができるように、緊急時におけるマニュアルを作成して実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中及び夜間を想定した避難訓練を実施している。新人職員は必ず1回は参加できるように取り組んでいる。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を職員と利用者が一緒に時間を測定しながら行っている。災害発生時に備えて、トイレやストーブ、毛布を備蓄している。食料等は消費期限表を作成して管理している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーに配慮している。また、利用者様の言動を理解し、否定や拒否しないように努めている。	介助時や声がけ時は、羞恥心やプライバシーに配慮し、その時々状況に合わせて小声で話したり、必要時には場所を変えて話す等の対応をしている。個人情報やプライバシーについては、ホーム全体で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、一人ひとりのわかる力を発見できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合やスケジュールでなく、利用者様一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みを聞いたり、化粧を勧める等、おしゃれを楽しめるように働きかけている。また、ホームに在所する床屋を利用できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事提供時は、盛り付けを工夫したり、食器は食べやすいような物を選んでいる。準備や片付けは利用者様と一緒に楽しみながら行っている。	献立は法人の栄養士が作成している。食材は法人が調達し、ホームで調理を行っている。アレルギーや好き嫌いには、代替食で提供する等の配慮をしている。また、刻み食やとろみ食等、個々に応じて提供している。毎月の行事の中で、ホットプレートでのお好み焼き等、利用者と職員と一緒に調理して食を楽しむ日を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事と水分摂取量を記録している。嚥下機能が低下した利用者様には、調理や介護方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の手入れの必要性を理解し、毎食後、口腔内の洗浄や手入れを一緒に行ったり、言葉がけをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々の排泄パターンに応じてトイレへ誘導をしている。	一人ひとりの排泄パターンに応じて事前誘導を行っており、リハビリパンツにするタイミングを見極める等、自立に向けた支援を行っている。一人ひとりに寄り添いながら、羞恥心に配慮し、言葉遣いに注意して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食材やメニューの工夫、水分補給を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	曜日を決めているが、なるべく希望に沿った入浴を支援している。	ユニット毎に曜日を設定して週2回入浴できるようにしているが、入浴ができなかった場合でも他のユニットの入浴日に合わせて入浴することが可能である。車椅子の方は、家族の了承を得てシャワー浴で対応している。将来的にはリフト浴ができるように検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝時間と起床時間に合わせて支援をしている。また、パジャマに着替えて安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容や副作用について把握しており、指示通り正しく与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみ事を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日はホーム周辺を散策して、気分転換を図っている。行事に季節を感じれるお花見や紅葉ドライブを取り入れている。	楽しみや気分転換に繋がるように可能な限りホーム周辺へ出かけるように支援している。コロナ禍で外出が難しいため、お楽しみ会を取り入れる等、工夫して取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて金銭を所持できるように支援をしている。買い物へ出かけたり、買物代行を利用する等している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や友人、知人の電話や手紙を歓迎している。利用者様から電話や手紙を送るときは支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に季節の草花や利用者様と一緒に作った作品を飾っている。生活感や季節感を取り入れながら家庭的な雰囲気になっている。	小上がり前に大きな観葉植物を置いており、明るく清潔な印象となっている。大きな窓からは日差しがたっぷり入り、四季折々の自然を味わうことができる環境である。新型コロナウイルス感染症対策のため、空気清浄機を各ユニットに設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の状況に合わせて、いつでも座れるように、ソファや長椅子、椅子を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等の持ち込みを可能としており、利用者様にとって心地良い居室となっている。	各居室に整理タンス2個とベッドが備え付けられている。馴染みの物として、テレビや仏壇、家族の写真、人形、置物等の多様な持ち込みがある。持ち込みが少ない場合は、利用者の希望を聞きながら、行事で撮った写真や手作りの作品を飾る等して、安心して穏やかに生活ができる居室づくりをお手伝いしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の間違いを防ぐため、個々に合わせた表示を付ける等している。また、手すりを配置したり、玄関にスロープを取り付けて対応している。		